

Oracle® VM

Manager インストール・ガイド

リリース 2.1

2007 年 11 月

このドキュメントは、Oracle VM Manager をインストールし、使用するユーザーを対象としています。

このドキュメントでは、Oracle VM Manager のインストール・プロセスの概要について説明します。また、以下の項を含みます。

- [Oracle VM の概要](#)
- [Oracle VM Manager の構成](#)
- [インストール前のタスクと前提条件](#)
- [Oracle VM Manager のインストール](#)
- [Oracle VM Manager のアンインストール](#)
- [Oracle VM Manager の開始と停止](#)
- [ドキュメント・アクセシビリティ](#)

1 Oracle VM の概要

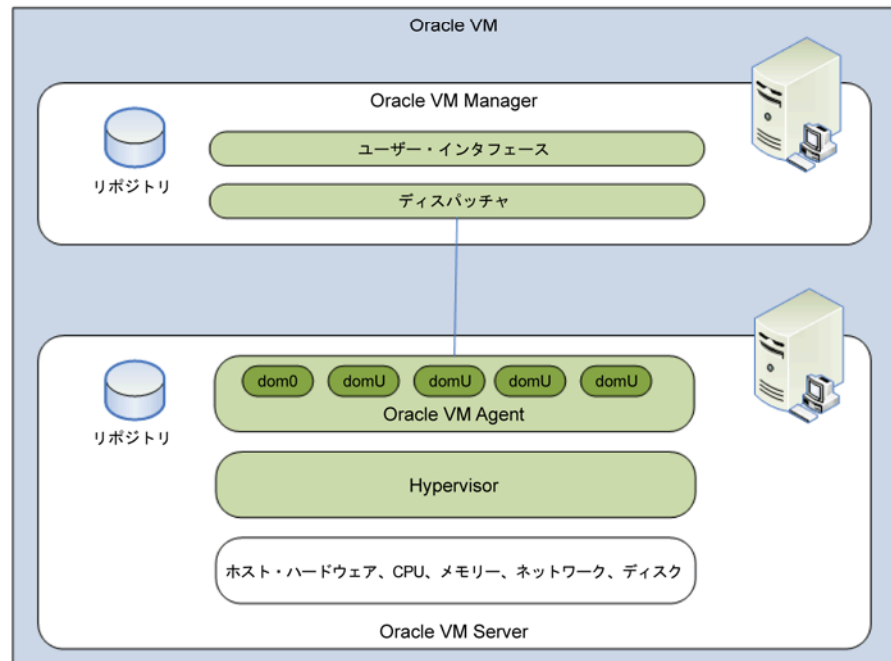
Oracle VM は、仮想化テクノロジーの利点を一層活用するための環境を完備したプラットフォームです。Oracle VM を利用することで、サポートされた仮想化環境内にオペレーティング・システムとアプリケーション・ソフトウェアを配置できます。Oracle VM のコンポーネントは、次のとおりです。

- **Oracle VM Manager** : Oracle VM Server を管理するためのユーザー・インタフェースを提供します。このインタフェースは、標準 ADF (Application Development Framework) Web アプリケーションです。また、インストール・メディアおよび仮想マシン・テンプレートを使用した仮想マシンの作成から、仮想マシンの削除、停止、アップロード、配置、およびライブ移行までを含む、ライフ・サイクル管理を行います。さらに、ISO ファイル、仮想マシン・イメージ、仮想マシン・テンプレート、および共有仮想ディスクのリソースを管理します。
- **Oracle VM Server** : 仮想マシンを実行するための軽量でセキュアなサーバー・ベース・プラットフォームを提供する独立型仮想化環境です。Oracle VM Server は基盤となる Xen hypervisor テクノロジーの更新版に基づいており、Oracle VM Agent を含みます。
- **Oracle VM Agent** : Oracle VM Server とともにインストールされ、Oracle VM Manager と通信して仮想マシンを管理します。

図 1 の "Oracle VM アーキテクチャ" は、Oracle VM のコンポーネントを示します。

ORACLE®

図1 Oracle VM アーキテクチャ

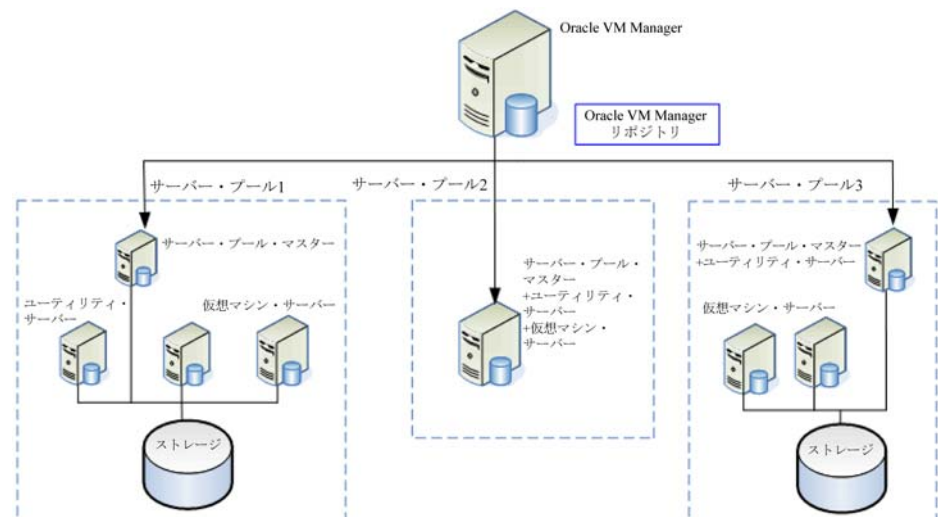


このドキュメントでは、Oracle VM Manager の使用方法について詳しくは、『Oracle VM Manager ユーザー・ガイド』を参照してください。

2 Oracle VM Manager の構成

Oracle VM Manager は、仮想マシンの作成、クローン、配置、および実行を行うサーバー・ベースのインタフェースです。また、シームレスな作業環境を実装するために、既存の仮想マシンの登録および管理を行うことも可能です。

図2 Oracle VM Manager の配置図



Oracle VM Manager には以下のコンポーネントが含まれます。

- Oracle VM Manager ホスト

Oracle VM Manager をインストールしたマシンは、Oracle VM Manager ホストと呼ばれます。このホストが提供するインタフェース上で、ほとんどの仮想マシン管理タスクが実行されます。おもな機能は、ユーザーが入力した操作コマンドを他の（場合によってはリモートの）サーバーへ転送し、その結果を表示することです。

- サーバー

1 台の物理サーバーで、以下の機能のうち、1 つか 2 つ、または 3 つすべてを実行することができます。

- サーバー・プール・マスター機能

サーバー・プール・マスターは、サーバー・プール操作の中心となります。外部に対するサーバー・プールの窓口としての役割を果たすとともに、サーバー・プール内の他のサーバーへのディスパッチャとして機能します。仮想マシン・サーバーのロード・バランシングは、サーバー・プール・マスター内で実装されます。1 つのサーバー・プールに含まれるサーバー・プール・マスターは 1 つだけです。

- ユーティリティ・サーバー機能

ユーティリティ・サーバーは、ファイルのコピーや移動といった I/O 関連の操作を行います。ユーティリティ・サーバーの機能は、仮想マシン、サーバー、サーバー・プールの作成、削除、および名前の変更操作に焦点を当てています。1 つのサーバー・プール内に、1 つまたは複数のユーティリティ・サーバーを配置できます。

- 仮想マシン・サーバー機能

仮想マシン・サーバーの第一の機能は、仮想マシンを実行することにあります。仮想マシン・サーバー上に設定されたデーモンにより、サーバー・プール・マスターと他のユーティリティ・サーバーおよび仮想マシン・サーバー間の通信が確立されます。1 つのサーバー・プール内に、1 つまたは複数の仮想マシン・サーバーを配置できます。

- ストレージ

ストレージ・リソースは、サーバー・プール内の Oracle VM Server 間で共有される外部リソースや他のデータ・ファイルに加えて、仮想マシンを格納するために実装されます。

3 インストール前のタスクと前提条件

インストール・プロセスを開始する前に、システムが以下のハードウェア要件およびソフトウェア要件を満たしていることを確認してください。ここでは、次のインストール前タスクと前提条件について説明します。

- [ハードウェア要件](#)
- [ソフトウェア要件](#)
- [ISOイメージに含まれるアプリケーション](#)

3.1 ハードウェア要件

Oracle VM Managerをインストールする前に、ご使用のコンピュータが表 1 に記載したハードウェア最小要件を満たしていることを確認してください。

表 1 Oracle VM Manager のハードウェア要件

項目	最小値
メモリー	2GB

表1 (つづき) Oracle VM Manager のハードウェア要件

項目	最小値
プロセッサ速度	1.83GHz
スワップ領域	2GB
ハードディスク容量	4GB

3.2 ソフトウェア要件

Oracle VM Manager をインストールする前に、ご使用のコンピュータが以下のソフトウェア最小要件を満たしていることを確認してください。

オペレーティング・システム

Oracle VM Manager は、Oracle Enterprise Linux 4 Update 5 またはそれ以降のオペレーティング・システム上で動作します。Oracle Enterprise Linux は、次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.oracle.com/linux>

注：Oracle Enterprise Linuxについて詳しくは、以下のWebサイトを参照してください。

<http://linux.oracle.com/>

<http://www.oracle.com/technology/tech/linux>

Web ブラウザ

Oracle VM Manager でサポートされている Web ブラウザは、以下のとおりです。

- Mozilla Firefox 1.5、またはそれ以降
- Microsoft Internet Explorer 6.0、またはそれ以降

非 Linux ユーザーのための TightVNC

非Linuxユーザーが仮想マシンにアクセスするには、TightVNC Javaアプレットをインストールする必要があります。次のWebサイトから、*tightvnc-java-1.3.9-1.noarch.rpm*をダウンロードします。

<http://www.oracle.com/virtualization>

TightVNC Java アプレットを設定するには、以下の手順に従います。

1. 次のコマンドを使用してインストールを実行します。

```
# rpm -ivh tightvnc-java-1.3.9-1.noarch.rpm
```
2. VncViewer.jar ファイルを取得します。
3. 次のようなコマンドを使用して、jar ファイルに署名します。

```
# /java_path/jdk_version/bin/keytool -genkey -alias vncviewer -validity 365  
# /java_path/jdk_version/bin/jarsigner vncviewer.jar vncviewer
```

次に例を示します。

```
/opt/oc4j/java/jdk1.5.0_11/bin/keytool -genkey -alias vncviewer -validity 365  
/opt/oc4j/java/jdk1.5.0_11/bin/jarsigner vncviewer.jar vncviewer
```

4. VncViewer.jar が次のフォルダに含まれていることを確認してください。

```
/opt/oc4j/j2ee/home/applications/OVS/webapp1/Class/
```

libaio.rpm ファイル

libaio.rpmパッケージがインストールされていることを確認します。libaio.rpmは、Oracle Enterprise LinuxのISOパッケージに含まれています。libaioのバージョンは、Oracle Enterprise Linuxのバージョンによって異なります。Oracle Enterprise Linux 4 Update 5 を使用する場合、libaioバージョンはlibaio-0.3.105-2になります。

1. libaio.rpmをインストールする前に、すでにインストールされていないかを確認します。libaio.rpmがインストール済みであるかどうかを判定するには、次のコマンドを入力します。

```
# /bin/rpm -q libaio.i386
```

このコマンドにより、既存のlibaio.rpmバージョンが表示されます。次に例を示します。
libaio-0.3.106-3.2

バージョン情報が表示されない場合、libaio.rpmをインストールする必要があります。

2. libaio.rpmを保管したディレクトリへ移動し、次のコマンドを入力します。

```
# rpm -ivh libaio-0.3.105-2.i386.rpm
```

ポート 8888 および 8899

ポート番号 8888 および 8899 が使用可能であることを確認します。これらのポートが使用可能であるかどうかを判定するには、次のコマンドを入力します。

```
# netstat -na |grep 8888  
# netstat -na |grep 8899
```

ポートが使用可能である場合は、何も表示されません。

これらのポートが使用可能でない場合、これら 2 つのポートを使用しているサービスが表示されます。これら 2 つのポートを開放する必要があります。

これらのポート番号を開放し、外部アクセスを確保するために、ファイアウォールを介したポート 8888 および 8899 へのアクセスを許可します。

1. 次のコマンドを入力して、ファイアウォールの設定を行います。
/usr/bin/system-config-securitylevel
2. セキュリティ・レベルとして「**Enabled**」を選択します。
3. 「**Customize**」をクリックします。**Other ports**フィールドに次のテキストを入力します。
8888:tcp,8899:tcp

Oracle Containers for J2EE (OC4J) プロセス

Oracle VM Manager をインストールする前に、ポート 23791 を使用しているすべての OC4J プロセスを停止する必要があります。ポートを開放するには、以下の手順に従います。

- はじめて Oracle VM Manager をインストールする場合、以下の手順に従って OC4J を停止します。
 1. 次のコマンドを入力して、OC4J のステータスを確認します。
ps -ef | grep oc4j
 2. OC4J が実行中である場合、次のコマンドを入力してこれを停止します。
/sbin/service oc4j stop

OC4J が別のディレクトリで実行中の場合、次のようなコマンドを入力してこれを停止します。

```
# /opt/oc4j/bin/oc4j -shutdown -port 23791 -password $oc4j_adm_pass
```

上記のコマンドは、一例に過ぎません。ディレクトリ、ポート番号、およびパスワードは、それぞれの設定により異なります。

- OC4J が実行中であるために Oracle VM Manager のインストールに失敗し、再インストールを行う必要がある場合は、以下の手順に従います。

1. Oracle VM Manager をアンインストールします。
2. 上述の手順に従って、OC4J を停止します。
3. Oracle VM Manager を再インストールします。

Oracle VM Managerのアンインストールについては、[第 5 項"Oracle VM Managerのアンインストール"](#)を参照してください。

その他の必要ポートとパスワード

インストール・プロセス中に、以下のポートとパスワードを入力する必要があります。

- Oracle Database 10g Express EditionのHTTPポート。デフォルトのポート番号は8080です。
- Oracle Database 10g Express Editionのデータベース・リスニング・ポート。デフォルトのポート番号は1521です。
- Oracle Database 10g Express Editionのデータベース・アカウントSYSおよびSYSTEMのパスワード。
- Oracle VM Manager DataCollectorのユーザー名およびパスワード。デフォルトのユーザー名はovsです。
- OC4Jアカウントoc4jadminのパスワード。デフォルトのパスワードはoracleです。
- SMTP サーバーのホスト名。
- Oracle VM Managerのアカウントadminの電子メール・アドレス。

注：これらのポートが使用可能であることを確認してください。ポートが他のアプリケーションにより使用されている場合、そのポートを開放するか、使用可能な他のポートを使用してください。

3.3 ISO イメージに含まれるアプリケーション

Oracle VM Manager の実行に必要なアプリケーションは、ISO イメージにパッケージ化されています。Oracle VM Manager ホストにインストールされるアプリケーションは、次のとおりです。

- Oracle Database 10g Express Edition

インストール済みのデータベース管理システム、または Oracle Database 10g Express Edition が Oracle VM Manager ホスト上にある場合も、Oracle Database 10g Express Edition はインストールされます。

注：Oracle Database 10g Express Editionについて詳しくは、『Oracle Database Express Edition Installation Guide 10g Release 2 (10.2)』を参照してください。

- Oracle VM Manager パッケージ
- Application Development Framework (ADF) 10.1.3.3 と一緒にパッケージ化されている Oracle Containers for J2EE (OC4J) Standalone 10.1.3

注：Oracle Containers for J2EEについて詳しくは、『Oracle Containers for J2EE 構成および管理ガイド』を参照してください。

- Oracle Chart Builder
- XML-RPC 3.0

4 Oracle VM Manager のインストール

ここでは、Oracle VM Manager のインストール・プロセスについて説明します。以下の項が含まれます。

- [インストール・プロセス](#)
- [インストール・ログ](#)

4.1 インストール・プロセス

ISO イメージに含まれるすべてのアプリケーションのインストールを完了するには、約 5～15 分かかります。インストール時間は、Oracle VM Manager ホストのパフォーマンスによって異なります。

1. 次の Web サイトから、Oracle VM Manager をダウンロードします。

<http://www.oracle.com/virtualization>

2. Oracle VM Managerホストにrootユーザーとしてログインします。

注：必ずrootユーザーとしてログインしてください。それ以外のユーザーでは、インストールを実行できません。

3. CD またはハード・ドライブから、Oracle VM Manager をインストールします。

- CD-ROM から Oracle VM Manager をインストールするには、Oracle VM Manager の ISO ファイルから CD-ROM を作成します。Oracle VM Manager CD-ROM を挿入し、次のコマンドを使用してマウントします。

```
# mkdir mount-point
# mount /dev/cdrom mount-point
```

ここで、*mount-point*はISOファイルをマウントするディレクトリを指します。

- ハード・ドライブから Oracle VM Manager をインストールするには、ISO ファイルを含むフォルダへ移動します。次のコマンドを使用して、ISO ファイルを既存ディレクトリにマウントします。

```
# mkdir mount-point
# mount -o loop,ro OracleVM-Manager-2.1.iso mount-point
```

ここで、*mount-point*はISOファイルをマウントするディレクトリを指します。次に例を示します。

```
# mkdir /setup
# mount -o loop,ro OracleVM-Manager-2.1.iso /setup
```

マウントされたファイルは、すべて/*setup*ディレクトリにあります。

4. マウント・ポイント（例：ステップ 3 の/*setup*）へ移動します。インストールを開始するには、*runInstaller*スクリプトを実行します。

```
# cd setup
# sh runInstaller.sh
```

コマンド・プロンプトで1と入力して、Oracle VM Managerをインストールします。

```
Please enter the choice:[1|2]
1. Install Oracle VM Manager
2. Uninstall Oracle VM Manager
```

インストール・プロセスが開始され、以下の情報が表示されます。

```
Starting Oracle VM Manager installation ...
Checking the supported platforms ...Done
Checking the prerequisite packages are installed ...Done
Checking the available disk space ...Done
Installing the oracle-xe-univ package (rpm) ... Done
```

5. Oracle Database 10g Express EditionのHTTPポートとリスナー・ポートを入力するよう指示されます。**[Enter]**キーを押してデフォルト設定を受け入れるか、または新しいポート番号を入力します。

Oracle Database 10g Express Edition Configuration

This will configure on-boot properties of Oracle Database 10g Express Edition. The following questions will determine whether the database should be starting upon system boot, the ports it will use, and the passwords that will be used for database accounts. Press <Enter> to accept the defaults. Ctrl-C will abort.

Specify the HTTP port that will be used for Oracle Application Express [8080]:
Specify a port that will be used for the database listener [1521]:

6. Oracle Database 10g Express Editionのデータベース・アカウントSYSおよびSYSTEMのパスワードを設定します。

Specify a password to be used for database accounts. Note that the same password will be used for SYS and SYSTEM. Oracle recommends the use of different passwords for each database account. This can be done after initial configuration:
Confirm the password:

7. デフォルト設定では、ブート時にOracle Database 10g Express Editionが自動的に開始されます。**[Enter]**キーを押してデフォルト設定を有効にするか、または**n**と入力してOracle Database 10g Express Editionを手動で開始するようにします。

Do you want Oracle Database 10g Express Edition to be started on boot (y/n) [y]:

Oracle Database 10g Express Edition の構成ホームページにアクセスするには、次の Web サイトにアクセスしてください。ローカル・アクセスの場合、次の URL へ移動します。

<http://127.0.0.1:8080/apex>

リモート・アクセスの場合、次の URL へ移動します。

<http://hostname:8080/apex>

ここで、*hostname*は、Oracle VM Managerホストのホスト名またはIPアドレスを指します。

8. Oracle VM Manager データベースのパスワードを入力します。

```
Creating the Oracle VM Manager database schema ...
Set default schema to 'OVS'.
Please enter the password for OVS:
Please re-enter the password for OVS:
```

注：パスワードを有効にするには、以下のルールに従う必要があります。

- 頭文字：大文字または小文字
- 使用可能な文字：数字（1、2、3、など）、文字（a から z まで、および A から Z まで）、アンダースコア（_）

有効なユーザー名の例：User01、User_123、user

9. DataCollectorでアカウントovsのパスワードを変更している場合、以下の手順を実行する必要があります。

a. DataCollector の暗号化パスワードを再生成します。

```
# /opt/ovs-manager-2.1/OVSDDataCollector/run.sh --action 5 password
```

b. 表示された暗号化コードをコピーします。DataCollector のプロパティ・ファイルを開きます。

```
# vi
/opt/ovs-manager-2.1/OVSDDataCollector/classes/com/oracle/oardc/ovs/OVSDDataCollector.properties
```

次のパスワードを、ステップ 1 の暗号化パスワードで置き換えます。

```
database.connection.password=password
```

c. <http://127.0.0.1:8888/em>へログインし、JDBC接続プールのパスワードを変更します。

10. Oracle Database 10g Express Edition のインストールが完了した後、runInstaller スクリプトは、Oracle VM Manager パッケージと Oracle Containers for J2EE（OC4J）を続けてインストールします。

```
Installing the OC4J package (rpm) ...Done
The default password for oc4jadmin is oracle.
You can change the default password after the installation completes.
To access the OC4J Home Page and change the password go to
http://127.0.0.1:8888/em
Starting OC4J ...Done
OC4J logfile can be found in /var/log/ovm-manager/oc4j.log.
```

OC4Jの管理者アカウントのデフォルトのユーザー名とパスワードは、それぞれ **oc4jadmin**と**oracle**です。後からパスワードを変更するには、次のURLからログインします。<http://127.0.0.1:8888/em>

11. コマンド・プロンプトで、OC4J 管理者アカウントのパスワードと Oracle リスナー・ポートを入力します。

注：パスワードやポート番号を変更している場合、新しいパスワードとポート番号を入力してください。そうでない場合、これらの値はデフォルトに戻されます。

Please enter the password for oc4jadmin?

デフォルトのポートである 1521 を受け入れる場合、**[Enter]**キーを押します。デフォルトのポートをステップ 4 でリセットしている場合は、新しいポート番号を入力します。

Please enter the Oracle Net Listener Port , default is [1521] ?

12. SMTP サーバーのホスト名を入力します。

Configuring SMTP server ...

Please enter the outgoing mail server (SMTP) hostname:

13. 電子メール・アドレスを入力し、**[Enter]**キーを押します。

Configuring e-mail address for Oracle VM Manager account 'admin'...

Please enter an e-mail address for the admin account :admin@mycompany.com

Please re-enter an e-mail address for the admin account :admin@mycompany.com

Updating e-mail address for admin account to admin@mycompany.com ...

Done

この電子メール・アドレスは、Oracle VM Managerのログイン・パスワードを忘れた場合に、新しいパスワードの送付先として使用されます。ログイン・ページで「**Forgot Password**」をクリックしてアカウント名を入力すると、新規パスワードがこの電子メール・アドレスに送付されます。

14. インストールが完了すると、次のメッセージが表示されます。

Installation of Oracle VM Manager completed successfully.

To access the Oracle VM Manager home page go to:

<http://127.0.0.1:8888/OVS>

Default user is 'admin' with password 'oracle'.

To access the Oracle VM Manager help page go to:

<http://127.0.0.1:8888/help/help>

15. Oracle VM Manager のインストールが完了したら、続けて、以下のタスクを実行する必要があります。

- a. Web ブラウザに以下のいずれかのアドレスを入力して、Oracle VM Manager の使用を開始します。

ローカル・アクセスの場合：<http://127.0.0.1:8888/OVS>

リモート・アクセスの場合：<http://hostname:8888/OVS>

ここで、*hostname*は、Oracle VM Managerホストのホスト名またはIPアドレスを指します。

- b. デフォルトのアカウントadmin/oracleを使用してログインし、すぐにパスワードを変更します。「Profile」をクリックして、新しいパスワードを入力します。
- c. Oracle VM Manager の使用を開始して、仮想マシンを管理する環境を設定するには、『Oracle VM Manager ユーザー・ガイド』を参照してください。

4.2 インストール・ログ

インストール中にエラーが発生した場合、次のディレクトリにあるログ・ファイルを確認します。

/var/log/ovm-manager

Oracle VM Manager のインストール中に、インストーラが生成するログ・ファイルは以下のとおりです。

表2 ログ・ファイル

ログ・ファイル名	説明
ovm-manager.log	Oracle VM Manager のインストールを記録したログ情報が含まれます。
xe.log	Oracle Database 10g Express Edition のインストールを記録したログ情報が含まれます。
oc4j.log	Oracle Containers for J2EE のインストールを記録したログ情報が含まれます。 oc4j.logが 10MBを超えると、新規ログ・ファイルのoc4j.log.1が生成され、oc4j.log内のログが保存されます。続いて、oc4j.logは消去されて新しいログ情報が記録されます。

5 Oracle VM Manager のアンインストール

注：アンインストールを実行する前に、Oracle VM Managerのバックアップを取得しなければならない場合があります。Oracle VM Managerのバックアップおよびリストア方法については、『Oracle VM Managerユーザー・ガイド』を参照してください。

Oracle VM Manager をアンインストールするには、以下の手順に従います。

1. Oracle VM Managerホストにrootユーザーとしてログインします。

注：アンインストールを実行するには、rootユーザーとしてログインする必要があります。

2. runInstaller.shスクリプトは、/opt/ovs-manager-2.1/binフォルダにあります。
3. /opt/ovs-manager-2.1/binフォルダに移動して、runInstallerスクリプトを実行します。

```
# sh runInstaller.sh
```

コマンド・プロンプトで2と入力して、Oracle VM Managerをアンインストールします。

```
Please enter the choice:[1|2]
1. Install Oracle VM Manager
2. Uninstall Oracle VM Manager
```

4. **y** (小文字) を入力して、アンインストールを確定します。
Are you sure you want to uninstall Oracle VM Manager ?[y|N] (Default=N):
5. 次のアンインストール・プロセスが正しく完了したことを示すメッセージが表示されます。
The deinstallation of Oracle VM Manager completed successfully.

6 Oracle VM Manager の開始と停止

rootユーザーとしてログインし、以下のコマンドのいずれかを入力してOracle VM Managerの開始または停止を行います。

- Oracle Containers for J2EE のステータスを確認する場合：

```
# /sbin/service oc4j status
```


Oracle VM Manager を開始する場合：

```
# /sbin/service oc4j start
```


Oracle VM Manager を停止する場合：

```
# /sbin/service oc4j stop
```
- または、次のコマンドを使用することもできます。

```
# /etc/init.d/oc4j [status|start|stop]
```
- また、Servicesダイアログを使用してOC4Jの開始と停止を行うこともできます。
「**Applications**」メニューから、「**System Settings**」→「**Server Settings**」→「**Services**」の順に選択します。

または、ターミナルで次のコマンドを実行して、Services ダイアログを使用することもできます。

```
# /usr/bin/system-config-services
```


Service Configurationウィンドウで「**oc4j**」を選択し、ステータスを確認してから、開始または停止を行います。

7 ドキュメント・アクセシビリティ

オラクルは、製品、サービス、およびサポート・ドキュメントを障害のあるお客様にも簡単に使用していただくことを目標にしています。当社のドキュメントには、ユーザーに支援技術に関する情報を提供する機能が含まれています。このドキュメントは、HTML形式で提供されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスするためのマークアップが含まれています。アクセシビリティの標準は進化し続けており、オラクルは当社のドキュメントをすべてのお客様が利用できるように、市場をリードする他のテクノロジー・ベンダーと積極的に協力して技術的な問題に対処しています。詳しくは、Oracle Accessibility ProgramのWebサイト、<http://www.oracle.com/accessibility/>を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティ

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを常に正しく読み取るとは限りません。コード表記規則では、右中括弧は別の空の行へ記す必要があります。ただし、スクリーン・リーダーでは、括弧または中括弧のみを含むテキスト行を読み取らない場合があります。

ドキュメント内の外部 Web サイトへのリンクのアクセシビリティ

このドキュメントには、オラクルが所有または管理しない他の企業または組織の Web サイトへのリンクが含まれる場合があります。オラクルは、それらの Web サイトのアクセシビリティに関する評価や言及は行いません。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

オラクルは、アメリカ国内では年中無休で 24 時間、Oracle サポート・サービスへのテキスト電話 (TTY) アクセスを提供しています。TTY サポートへは、800-446-2398 へお電話ください。米国外からは、+1-407-458-2479 へお電話ください。

Oracle VM Manager インストール・ガイド、リリース 2.1

Copyright © 2007, Oracle. All rights reserved.

このプログラム (ソフトウェアおよびドキュメントを含む) には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

本文書に記載された内容は、予告なく変更されることがあります。本文書内に問題が見つかった場合は、書面にて報告してください。オラクル社およびその関連会社は、本文書に一切間違いがないことを保証するものではありません。これらのプログラムのライセンス契約において明確に許諾されている場合を除いて、いかなる形式、手段 (電子的または機械的)、目的のためにも、これらのプログラムを複製または転用することはできません。

このプログラムがアメリカ政府またはプログラムのライセンスを受け、使用するアメリカ政府の代理人に提供される場合は、以下の注意事項を適用します。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることはライセンシーの責任となります。万が一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、および Siebel は、米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、(a) 第三者の製品およびサービスの品質、(b) 購入製品またはサービスに関連する第三者との契約のいかなる条項の履行 (製品またはサービスの提供、保証義務を含む) に関しても責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

